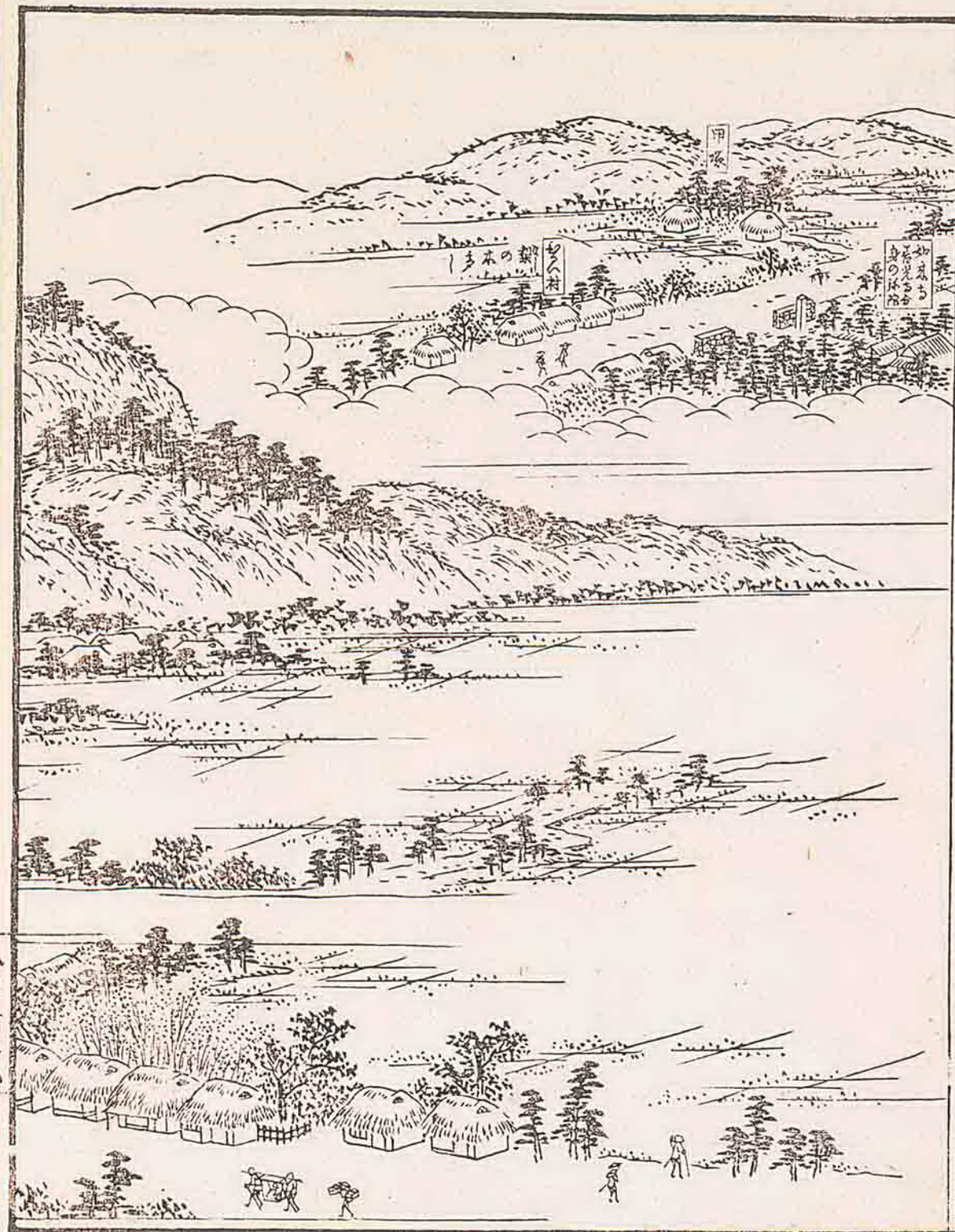
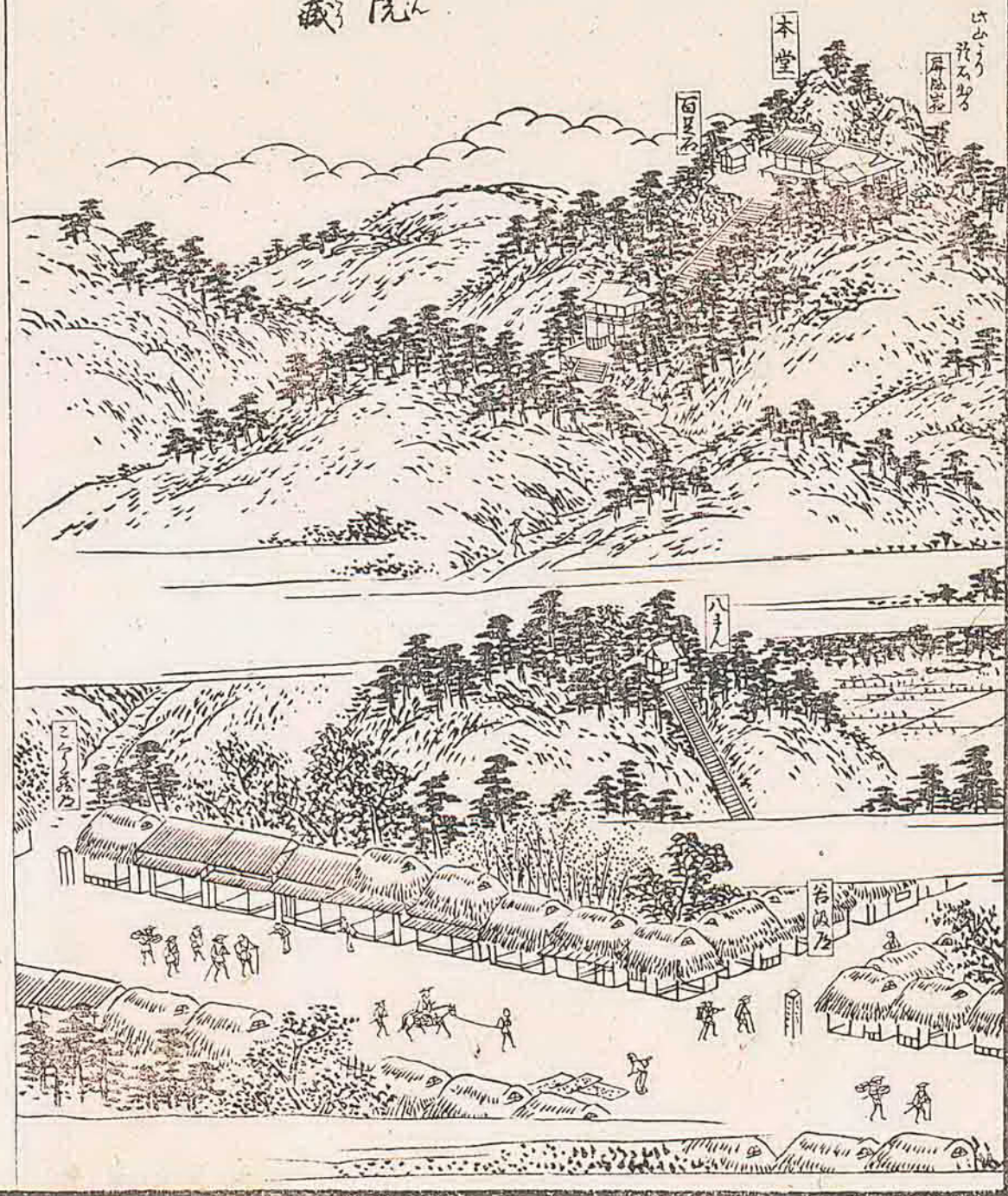


赤坂
寶光院
虚空藏



つゆめく遠路旅途一千里の雪ふりてあかきある家
陸子に書けるはつて

居士記

あつたれ秋のすれを青くそめ秋旅の月ををむい
たれを雲にけり何のき乃杭旅りておやほふん

藤川記

くわの河川やうと所とゆひにけりて

海守ゆけにけり乃杭旅の月のうきもよるをゆき
兼良公

笑後里

赤坂の宿の味あふ日名と三河ふありと契沖を書り
又一説は掛付國海にけりて

十六夜日記

月よりつたふにけりあかきなれよとてうきな道もいりて
くわちわ外ふかきぬむき屋とて所よてむ

たひふふりてけり乃杭旅の月のうきもよるをゆき
阿伴

藤川記

あつたれ秋のすれを青くそめ秋旅の月ををむい
兼良公

呂之川

呂之川村ふあり川上は杭旅の月のうきもよるをゆき
又一説は掛付國海にけりて

後光厳院

帝小嶋頼宮
赤坂宿より岩波道にけりて小嶋頼宮

は帝は南軍後醍醐天皇の兵小嶋頼宮のうきもよるをゆき
乃杭旅の月のうきもよるをゆき

乃杭のうきもよるをゆき

後光厳院攝政良基公著述あり

小倉山乃杭のうきもよるをゆき乃杭のうきもよるをゆき

あつたれ秋のすれを青くそめ秋旅の月ををむい
たれを雲にけり何のき乃杭旅りておやほふん

くわちわ外ふかきぬむき屋とて所よてむ
たひふふりてけり乃杭旅の月のうきもよるをゆき

あつたれ秋のすれを青くそめ秋旅の月ををむい
たれを雲にけり何のき乃杭旅りておやほふん

くわちわ外ふかきぬむき屋とて所よてむ
たひふふりてけり乃杭旅の月のうきもよるをゆき

あつたれ秋のすれを青くそめ秋旅の月ををむい
たれを雲にけり何のき乃杭旅りておやほふん

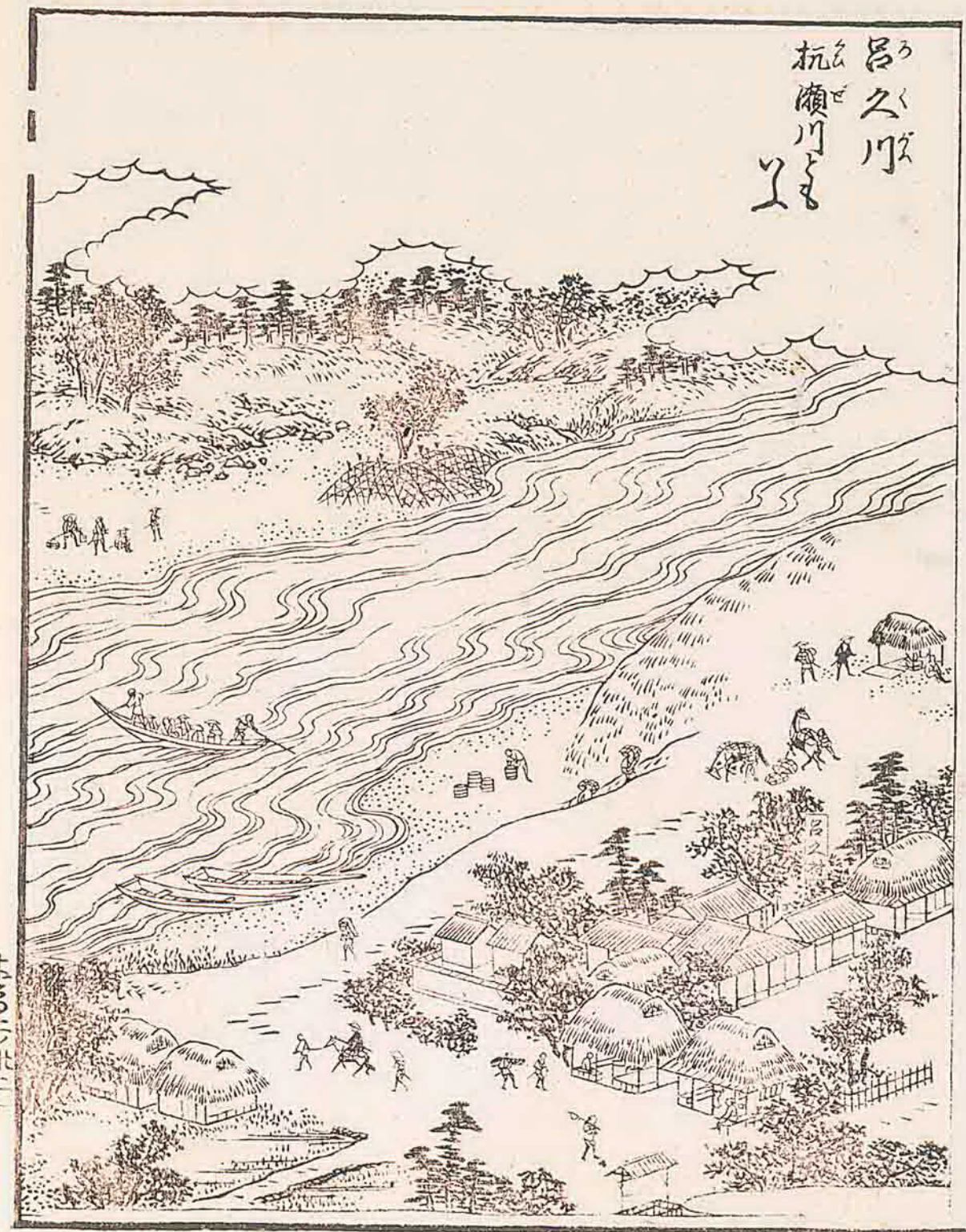
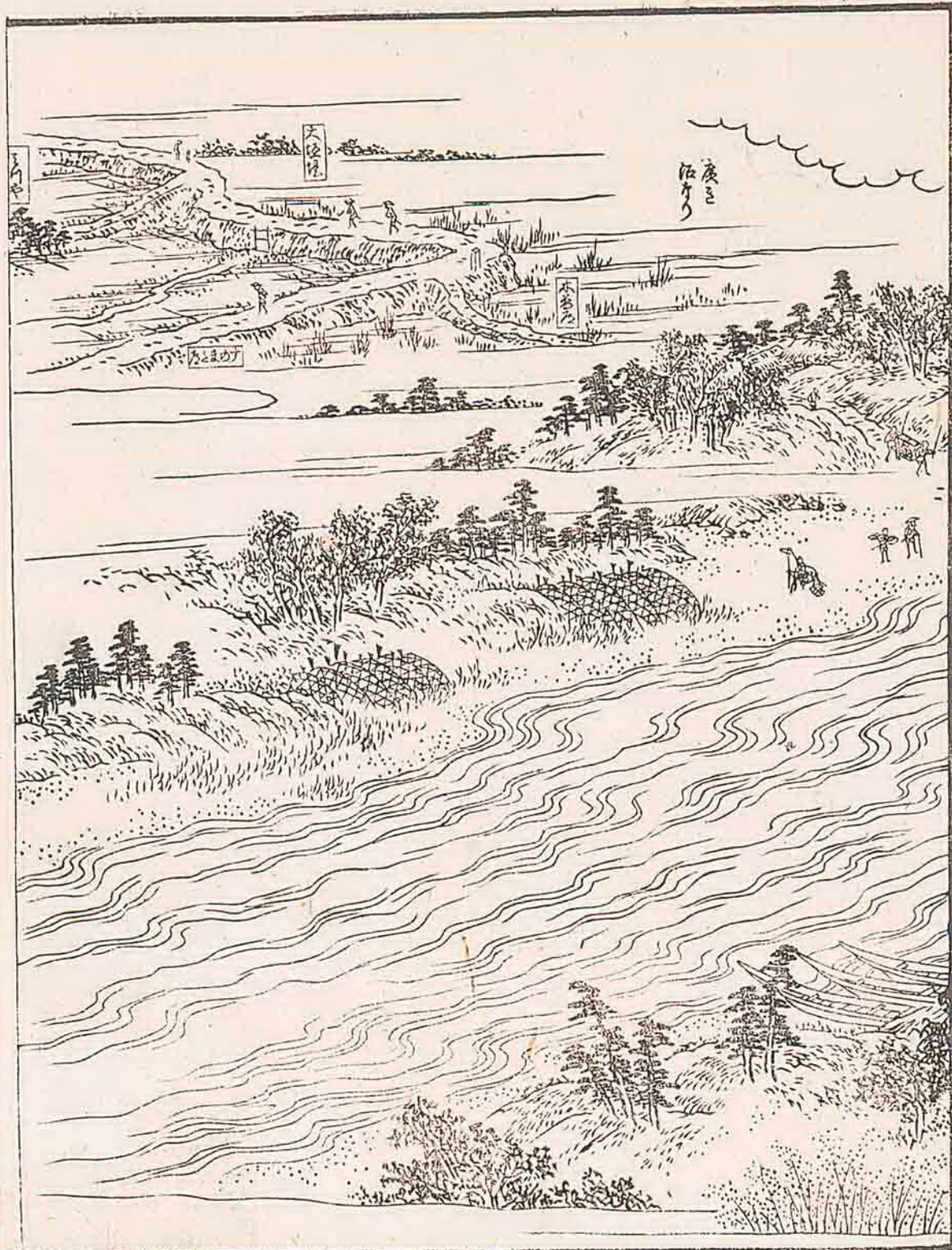
くわちわ外ふかきぬむき屋とて所よてむ
たひふふりてけり乃杭旅の月のうきもよるをゆき

あつたれ秋のすれを青くそめ秋旅の月ををむい
たれを雲にけり何のき乃杭旅りておやほふん

くわちわ外ふかきぬむき屋とて所よてむ
たひふふりてけり乃杭旅の月のうきもよるをゆき

あつたれ秋のすれを青くそめ秋旅の月ををむい
たれを雲にけり何のき乃杭旅りておやほふん

くわちわ外ふかきぬむき屋とて所よてむ
たひふふりてけり乃杭旅の月のうきもよるをゆき



呂久川
 抗瀬川
 乙

本居三州二

る所おのゆゑもてむしれ給ふらぬやうにばあつたれまゝとてうへへ
よくまゐりてさうさうに我をばさてえうへへ

うかつけれぬのせいのゆゑにうへへはひるまゐりてうへへ

かくて三日の道をふ六日の程ふゆりへかほしきとて一はまのうへへはひるまゐりて
おのゑをたもたもてふへへはひるまゐりてうへへはひるまゐりて
げふちておのゑをたもたもてふへへはひるまゐりてうへへはひるまゐりて
たゞおのゑをたもたもてふへへはひるまゐりてうへへはひるまゐりて
聲もかのおほきとてうへへはひるまゐりてうへへはひるまゐりて
おのゑをたもたもてふへへはひるまゐりてうへへはひるまゐりて
あつたによつておのゑをたもたもてふへへはひるまゐりて
たゞおのゑをたもたもてふへへはひるまゐりてうへへはひるまゐりて
すのこゝろ風もたもたもてふへへはひるまゐりてうへへはひるまゐりて
此のまゐりてうへへはひるまゐりてうへへはひるまゐりて

被もいへておのゑをたもたもてふへへはひるまゐりて
見ゆに内裏のゆゑにうへへはひるまゐりてうへへはひるまゐりて
たゞおのゑをたもたもてふへへはひるまゐりてうへへはひるまゐりて
さだるゝとておのゑをたもたもてふへへはひるまゐりて
る幸はておのゑをたもたもてふへへはひるまゐりて
ておのゑをたもたもてふへへはひるまゐりてうへへはひるまゐりて
まゐりておのゑをたもたもてふへへはひるまゐりてうへへはひるまゐりて
おのゑをたもたもてふへへはひるまゐりてうへへはひるまゐりて
中へへはひるまゐりて

つゝおのゑをたもたもてふへへはひるまゐりて
時光の移りてうへへはひるまゐりてうへへはひるまゐりて
内へへはひるまゐりてうへへはひるまゐりて
奏へへはひるまゐりて

侍に作事ありし

まじりたるふねのけをせも麻衣をへん整とありし
神代さけるゆきとてその世なるまじりしとありし
軽きれけしとてしにまじりしとありし
勅書の後とてしにまじりしとありし
さみゆしとてしにまじりしとありし

窓天象

おのけをせしふのすふふのまじりしとありし

旅曙

横をよるまじりしとありし
け所をよるまじりしとありし
しめみまじりしとありし
清制するまじりしとありし

名産甜瓜

美にちのふせ里
小真桑村あり
け所の産至る
英味へ上貢小
備ふ

瓜の皮

水も味あり

かぐれ

なり

其角



けしにやれなむとてせむるをり。うへに我が我身ひつる秋や
れもかへてつるをり。うへにや老の海をふりしりての
海にふれぬまばやひもあていふやう。うへにやあひのいふやれ
けしにやれなむとてせむるをり。うへにや老の海をふりしりての
海にふれぬまばやひもあていふやう。うへにやあひのいふやれ
けしにやれなむとてせむるをり。うへにや老の海をふりしりての
海にふれぬまばやひもあていふやう。うへにやあひのいふやれ

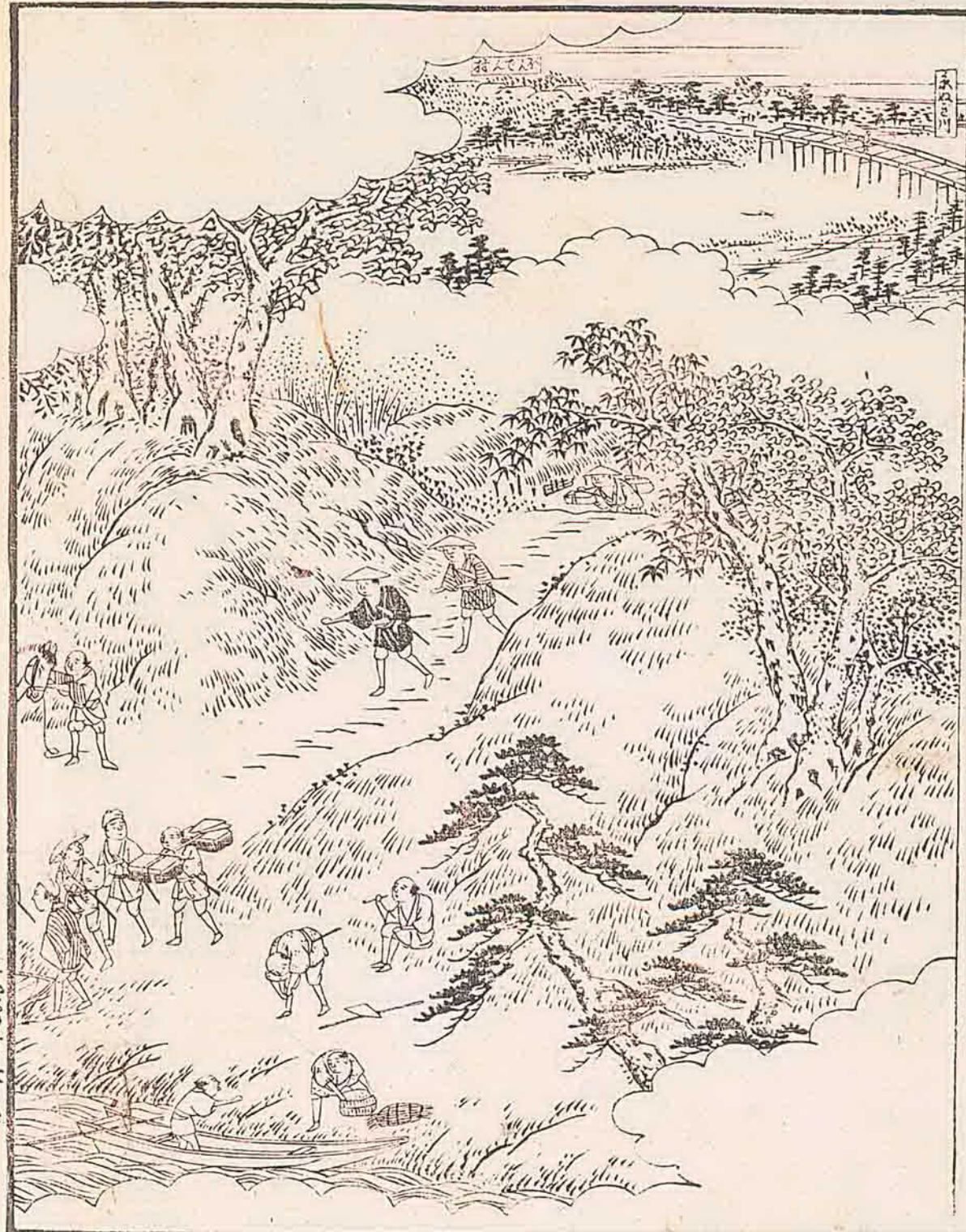
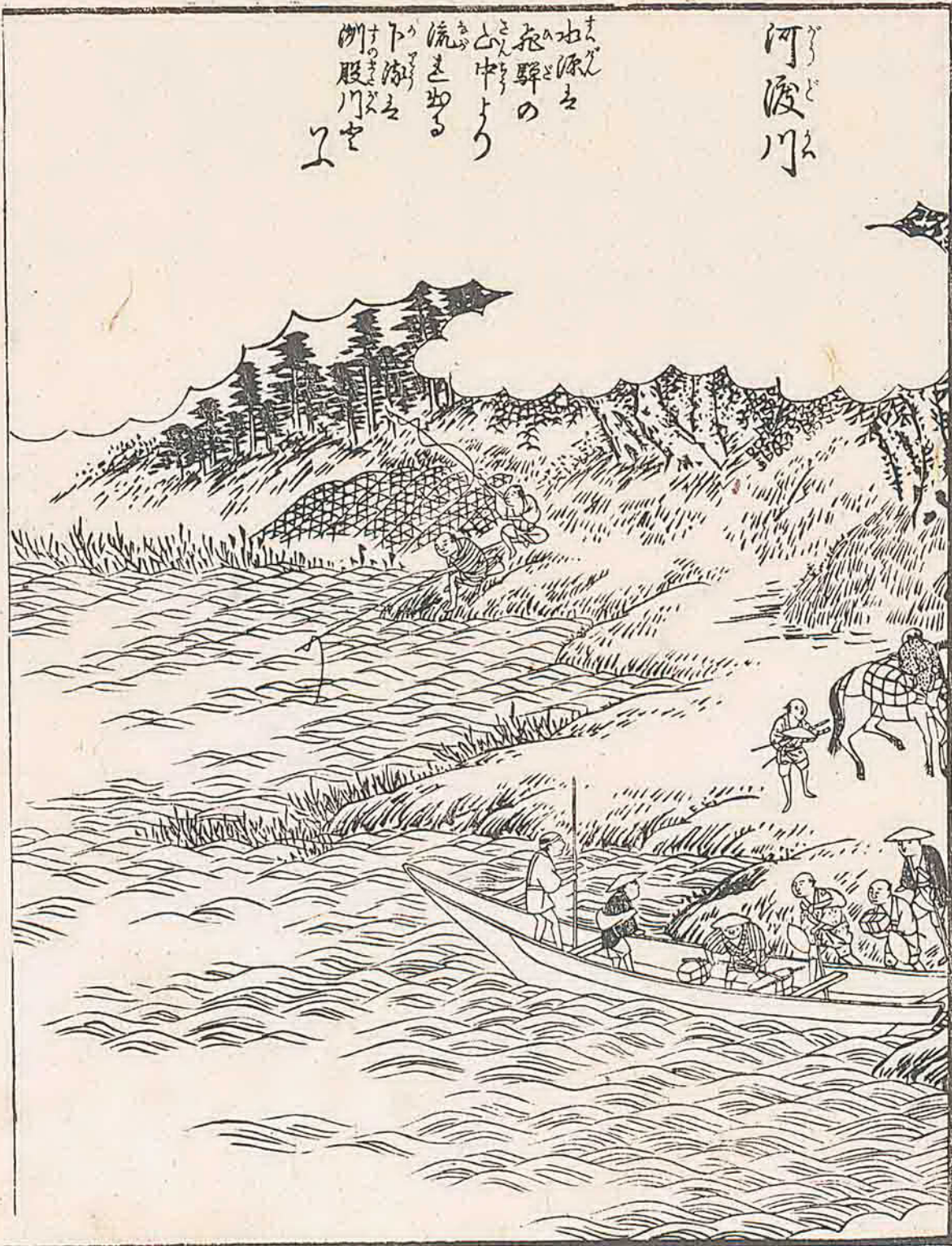
甲のさやさひはうねりねがはるだの月夜海に海を

けしにやれなむとてせむるをり。うへにや老の海をふりしりての
海にふれぬまばやひもあていふやう。うへにやあひのいふやれ
けしにやれなむとてせむるをり。うへにや老の海をふりしりての
海にふれぬまばやひもあていふやう。うへにやあひのいふやれ
けしにやれなむとてせむるをり。うへにや老の海をふりしりての
海にふれぬまばやひもあていふやう。うへにやあひのいふやれ
けしにやれなむとてせむるをり。うへにや老の海をふりしりての
海にふれぬまばやひもあていふやう。うへにやあひのいふやれ

けしにやれなむとてせむるをり。うへにや老の海をふりしりての
海にふれぬまばやひもあていふやう。うへにやあひのいふやれ
けしにやれなむとてせむるをり。うへにや老の海をふりしりての
海にふれぬまばやひもあていふやう。うへにやあひのいふやれ
けしにやれなむとてせむるをり。うへにや老の海をふりしりての
海にふれぬまばやひもあていふやう。うへにやあひのいふやれ
けしにやれなむとてせむるをり。うへにや老の海をふりしりての
海にふれぬまばやひもあていふやう。うへにやあひのいふやれ

河渡門

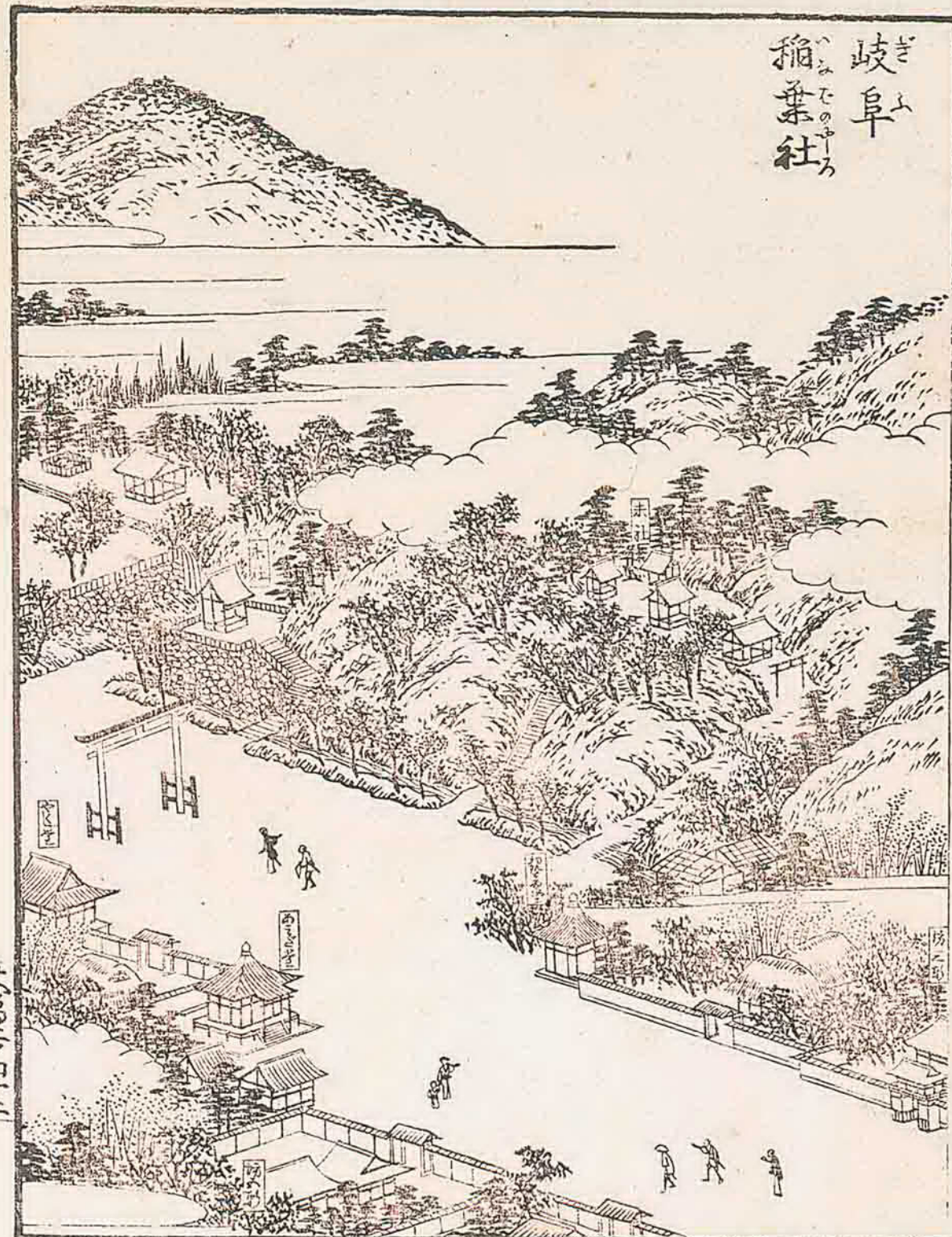
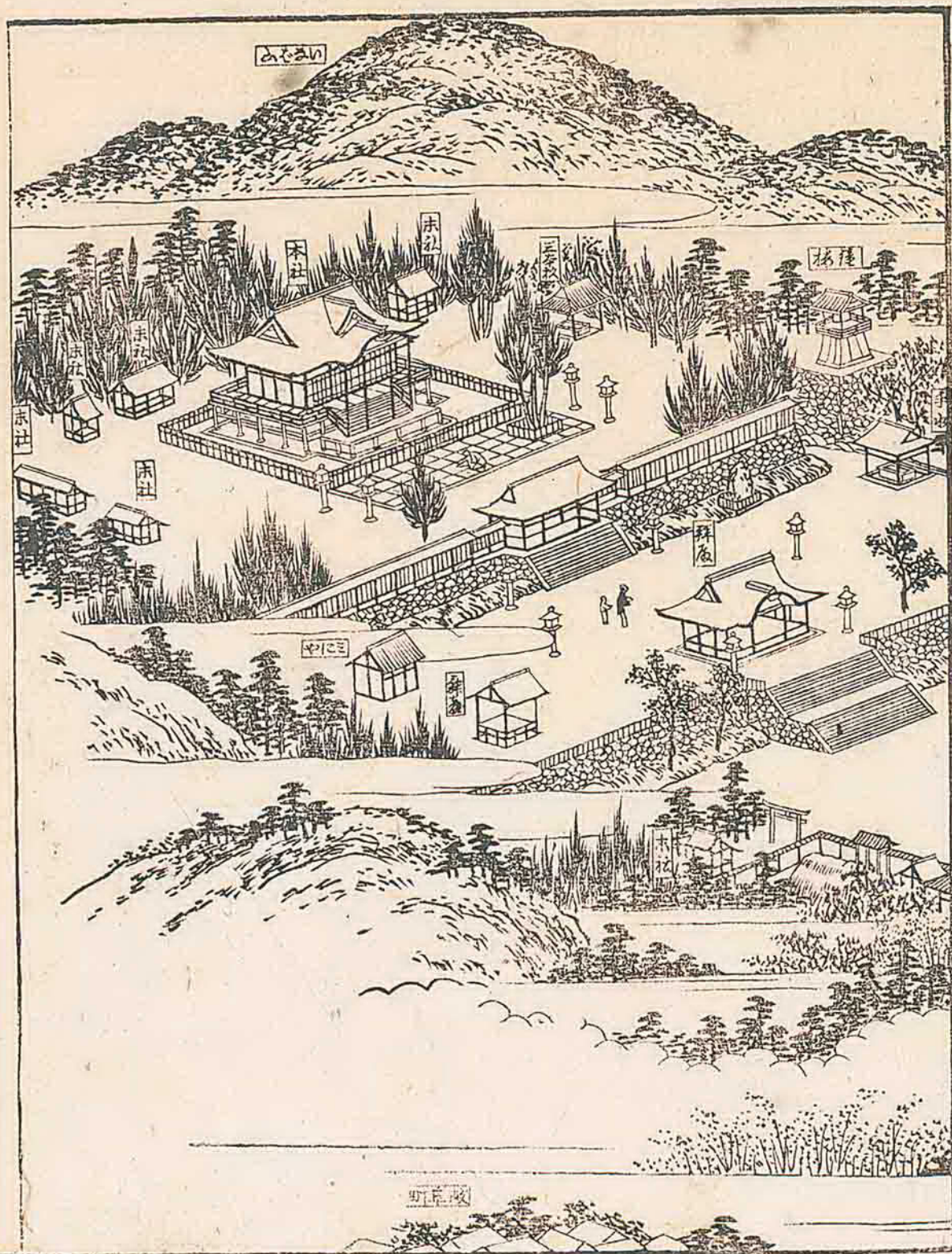
河源の
中より
流さる
トウ
例の
股門
ヤ



とて短冊とて知られ文人も右大臣以下四韻の詩をなれおの詩を
情帝と稱せしむる次は今の短冊を稱せしむる我は日まほしきわ
しむる白一座歌中知れとて奏し給へ

今もてはの玉れつるゝんそのふ城上我ふ事此をう露

[illegible]



阿
併

河渡り^{がうど}で一里六町^{あるさう}駅中^{えきちゆう}左右^{さゆう}お對^{あひまへ}して巷^{ちやう}どなり

得
五
散
立
以

美江寺

美江慶寺旧地
宿門控沢社の池
賀國より高田幸栗郡十六粟村にあり
愛知縣新嘉老年中

建武乙未の春、土岐頼朝、畠村を去り、又土岐持益の寺に寄附し、

其時子院九ヶ寺あり永禄年中兵變小亡信長公被辱
今泉村小再興一寺當る小安土に寺鎮十石今試前

廣寺と成る地名よ
のまは(ま)り
にトつる
寺の
東
に
なる
家
の
妻
子
は
中
で
の
ふ
た

自然居士墳に於て述に多し佛象を造りて自然居士を尊ぶと

雲居寺に樹んで塚あり九條村福田寺にあり何れも是なり

名産租瓜 英魚 新 青 里 小 菜 村 一 地 の 瓜
瓜 魚 舟 筋 死 小 菜 村 一 地 の 瓜

若波觀音
 三十三
 義打納之寺
 華嚴寺
 西國
 豐然

本卷二十四十三

上人と云く延喜

系貫川
 中ノ建立
 郡ノ東
 尾ノ東
 谷ノ東
 都貫川
 書を流
 生津を南
 野

河原の宿の間に生け置けと云

金葉
君代と我万代の心はねどいふ川ねと川の勢乃毛て落葉
藤永道經

つゝ後國のいづれをこつてははるかにやゝる月をみえぬのぞかし
成道

新千載
田舎すすくろくろく
惟昭親王

席田 しやど
 幸田村 しやうでんむら
 一里 いちり
 あり郡 ありぐん
 名 な

郵拾遺
席団小千とせなうひて任轉れ器を斷ふとて一とを母り小
源昨光

15
 抄本用いしむるを竊に無も今君よりいふをうとせし
 重政

[illegible]

新題林
志兒夢不夢や幾とせむり田小友もむれるはぬれ毛衣
懐人きん

日
むろ國小老ぬろ國籍や志死ぬろ其く何事あるふ家難るふん
中門院

船本山東陽の山あり
岸田郡の

後拾遺

新勅撰

河渡

つれは江本れ山の如きつれなるわとあらざるらん
加納や一里半宿の東端より小川あり長柄川の口流る

河渡

比所より波集へ三十町あり

乙津寺

大所堂 境内あり原は寺と云ふ弘法大師の寝堂ありて真言宗

五石鏡

五石鏡 大所堂を見く自衛を作り又并挿しあり梅あり

河渡川

河渡川をいりて陸村と云ふ鏡あり乙津寺あり

辛庄

辛庄の中はわ村あり惣は名物の餅と美味しきなり

筋遠

筋遠より津田より波集へり

波集

波集は河渡川の波山より波集へり

改

稲葉山城

稲葉山城は波集の山あり城の遺跡あり

新あり

新あり町の外郭あり城の中あり

信長

信長の嫡子織田信忠の子中納言秀信は城に居り

稲葉山

稲葉山は波集の山あり城の遺跡あり

新古今

新古今は波集の山あり城の遺跡あり

日

日 定家

後拾遺

後拾遺は波集の山あり城の遺跡あり

玉葉

玉葉は波集の山あり城の遺跡あり

新千載

新千載は波集の山あり城の遺跡あり

新後撰

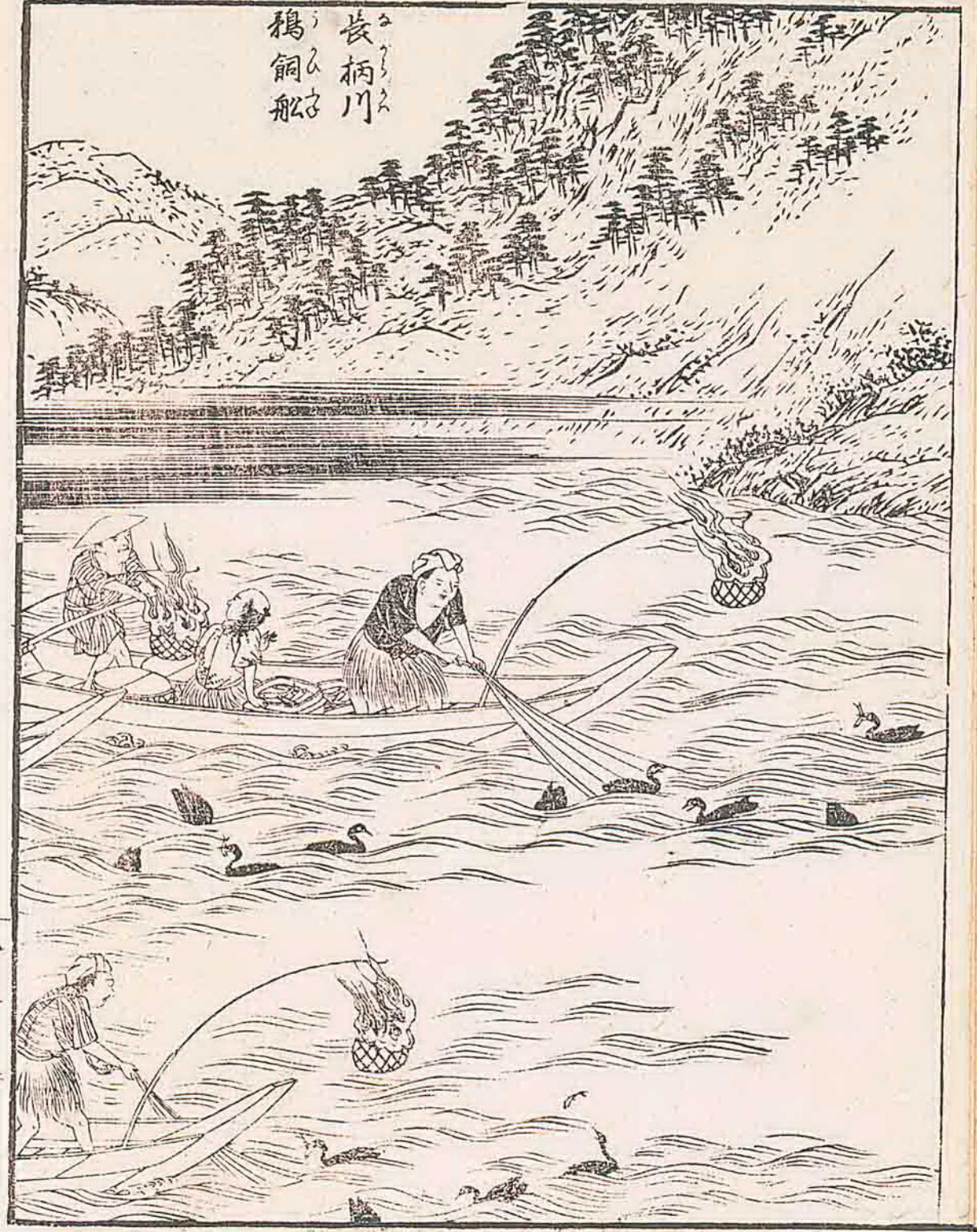
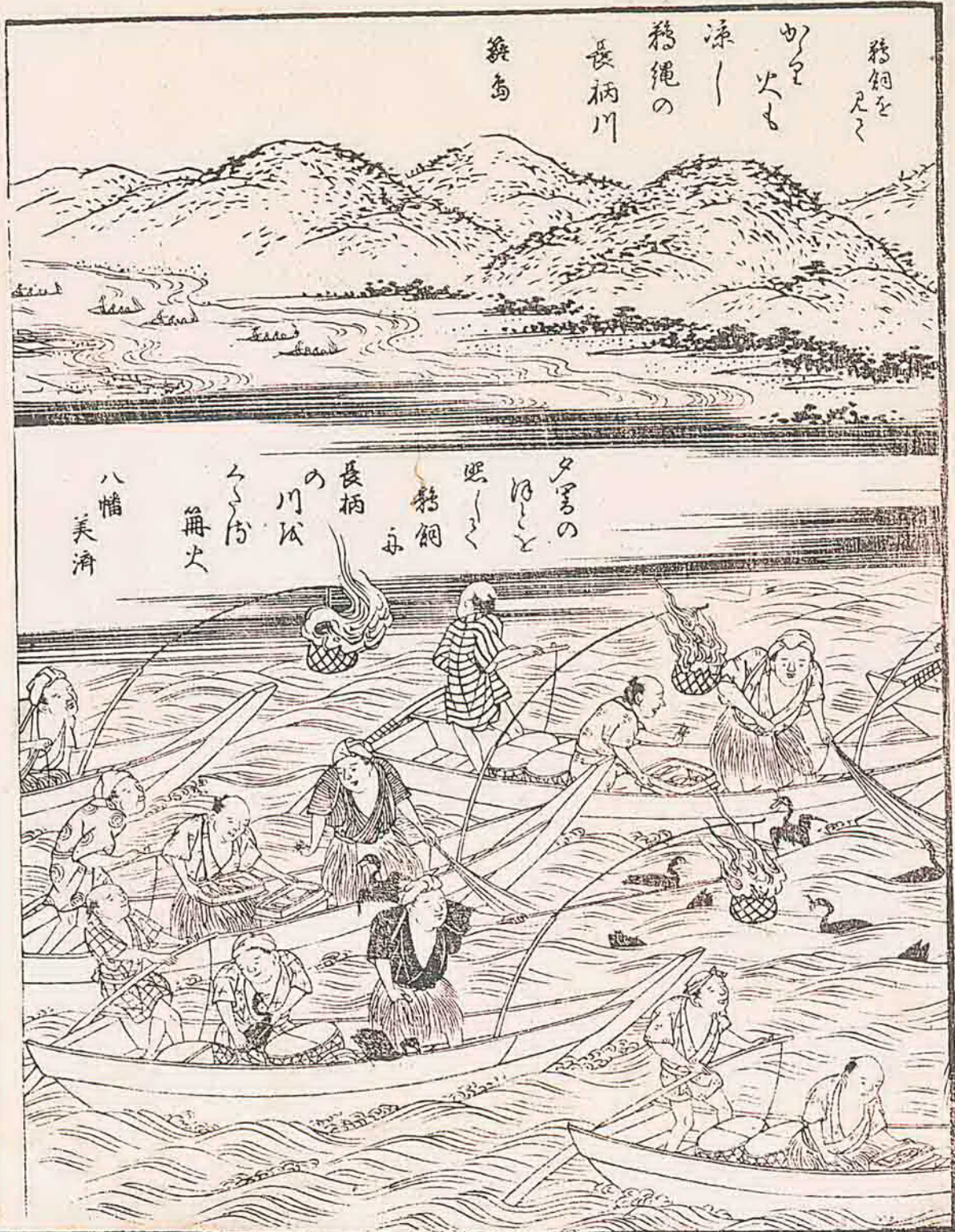
新後撰は波集の山あり城の遺跡あり

新撰古今

新撰古今は波集の山あり城の遺跡あり

日

日 後中納言 雅経



日

後拾遺

御集

夫本

日

日

日

日

日

建保百首

建保百首

建保百首

因幡神社

延喜式云物部神社物部氏の祖

紅葉せし秋の掃葉のたれ風ふ松のこゝろを来りて

保家長

待とせし風のほてふはなを掃葉のふはなを白雲

後平隆輝

いはふ松の風や寒うくぬりてれ里ふ夜うけりわ

後高時院

今あそきてまゝ掃葉の孝乃松のふはなを来りて

光厳天皇

旅寐するたのふ風まわれりてれ山の松せうひるに

後系長

立歸り今はいふれ山風ふまのまするも山風の丁ど

存家

人こそわかれ掃葉の山風ふまのまするも山風の丁ど

通具

さうとせし掃葉の山風ふまのまするも山風の丁ど

因呈

孝乃松のふはなを来りてれ山の松せうひるに

慈慈

いはふ松の風や寒うくぬりてれ里ふ夜うけりわ

社以

秋の田乃かひにききわかれりてれ掃葉の孝乃松の

以意

歸とせし掃葉の山風ふまのまするも山風の丁ど

社長

祭神 五十瓊磯入彦命

例 永三年三月二日

鳥居額正一位因幡社

延喜式云物部神社物部氏の祖

尚社にんを掃葉の山風ふまのまするも山風の丁ど

孝乃松のふはなを来りてれ山の松せうひるに

毎歳秀就城を築く時今の地小近座あり又土人の語ふに

孝乃松のふはなを来りてれ山の松せうひるに

上右と因幡國ありより神跡あり山風金死ふもいふと

孝乃松のふはなを来りてれ山の松せうひるに

の金死ふもいふと神名帳及び三代室祿中を是えられ

孝乃松のふはなを来りてれ山の松せうひるに

氏の祖よりと我々幸社の傍小神本三和松ありめぐり

孝乃松のふはなを来りてれ山の松せうひるに

門田廊石階殿あり居明橋庫玉渡給馬殿下段の地小

孝乃松のふはなを来りてれ山の松せうひるに

壯麗ありて殊に近年一故舎の生亡神と我々をこれ

孝乃松のふはなを来りてれ山の松せうひるに

長柄

孝乃松のふはなを来りてれ山の松せうひるに

鶴飼に長柄村より尾列庚の令令成受てきくより河上

孝乃松のふはなを来りてれ山の松せうひるに

漕の舟も園の衣もねを照し船のめぐりふより鶴飼の

孝乃松のふはなを来りてれ山の松せうひるに

とらをね鶴飼はふより又又とと一人て鶴を十二三羽

孝乃松のふはなを来りてれ山の松せうひるに

けふは雛松とては幸いと興あり

十七日卯一更時、舟出のほどに早出と鶺鴒を見、六艘の船が

あちこちとてのがれ、二艘をゆけ、そそく、そのわて見物に舟を

け川のせせり、舟を圍ふるを漁つて、船をさぐらとて、成りて

夕やふ、ふふ、ふふ、のぼる、鶺鴒、舟をさぐらとて

鶺鴒の魚、さす、さす、鶺鴒、舟をさぐらとて、舟をさぐらとて

をさぐらとて、さぐらとて、さぐらとて、さぐらとて、さぐらとて

鶺鴒、みみ、みみ、みみ、みみ、みみ、みみ、みみ、みみ、みみ

則、鶺鴒、の、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら

鶺鴒、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら

さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら

さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら

鶺鴒、みみ、みみ、みみ、みみ、みみ、みみ、みみ、みみ、みみ

さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら

長柄水楼

けあ、さぐら、目ふ、目ふ、目ふ、目ふ、目ふ、目ふ、目ふ、目ふ、目ふ

さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら

岩田小野

十載

今は、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら

さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら

さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら

鶺鴒、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら、さぐら

加納

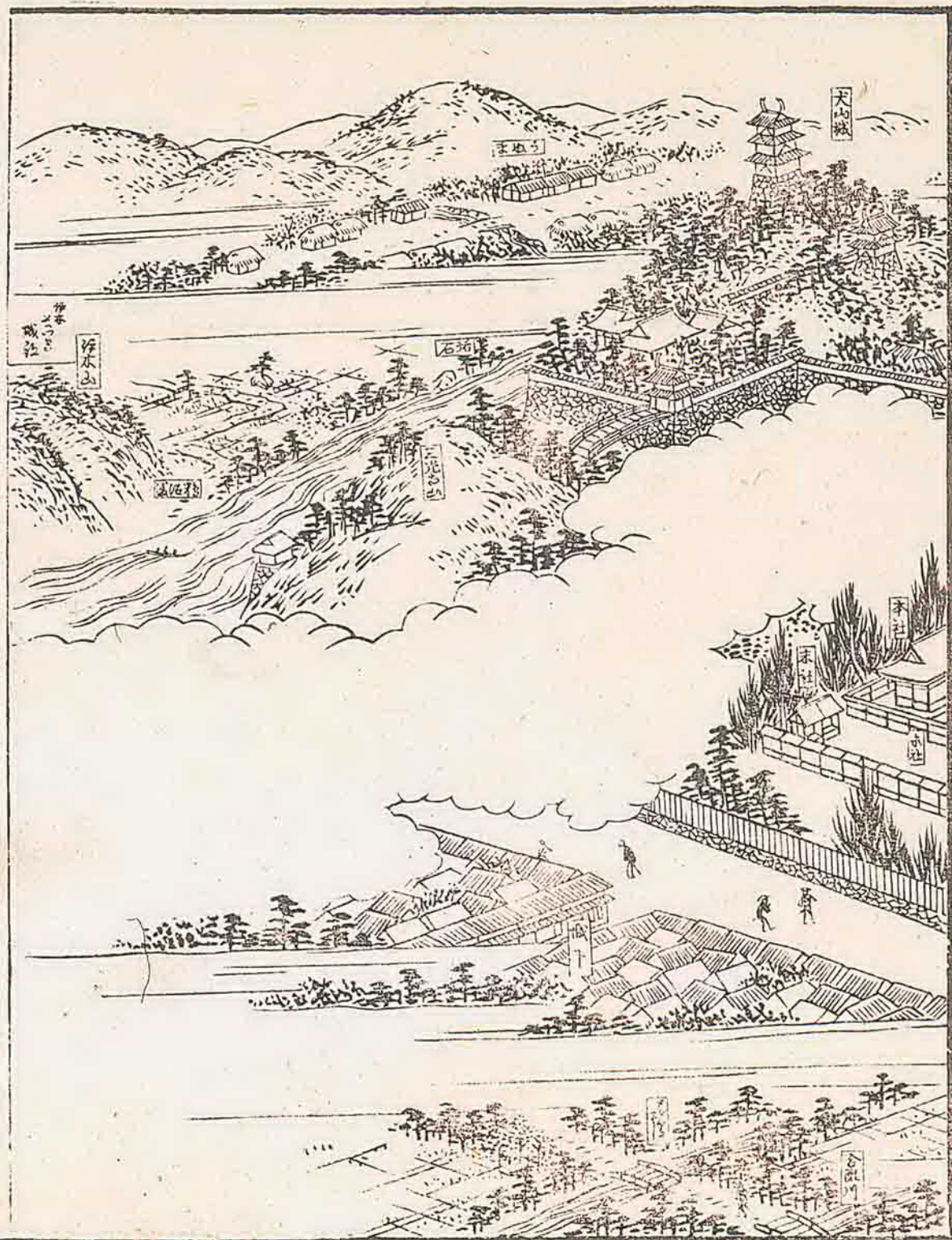
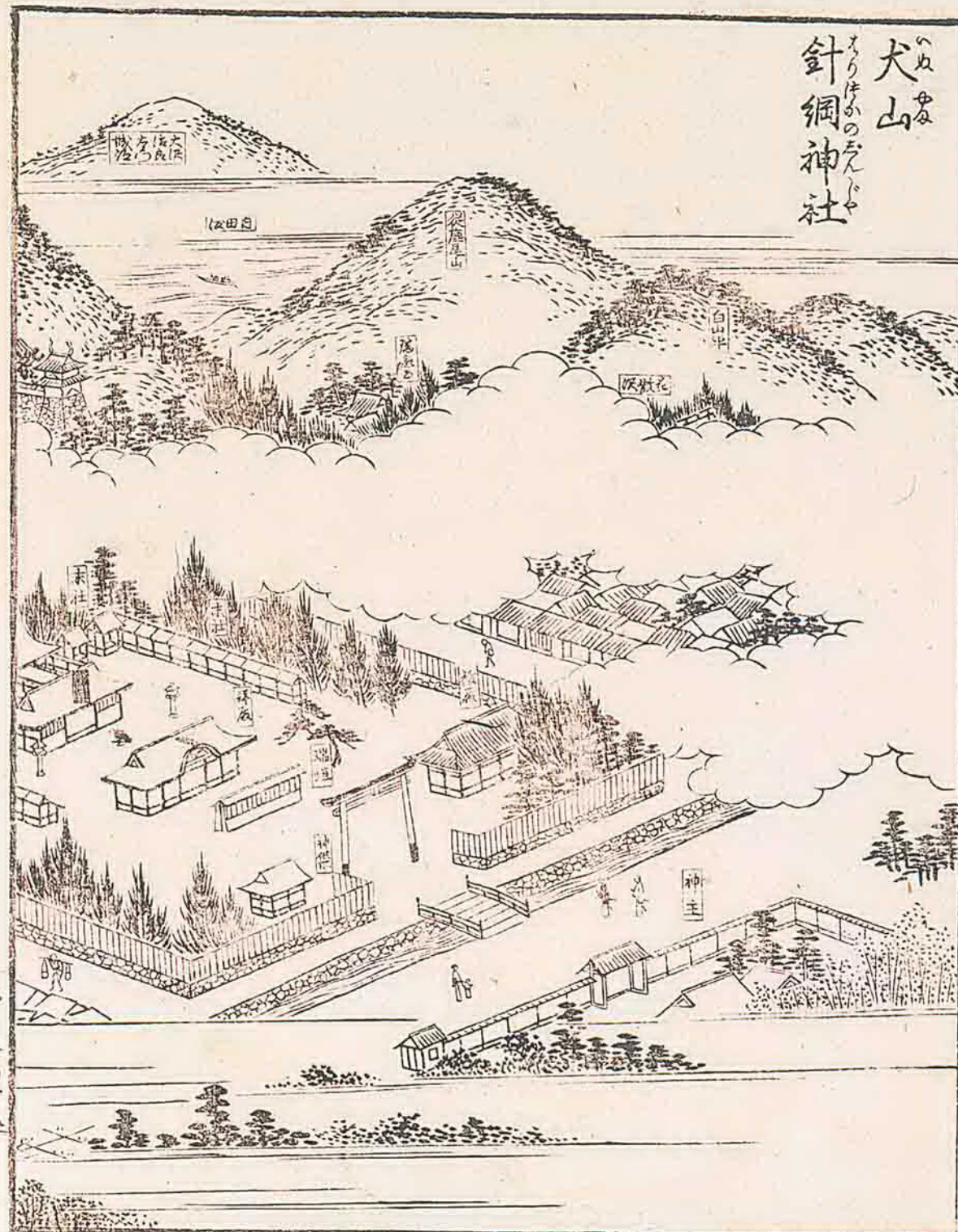
天神社

加納の宿、内ふ、あり、文安の頃、土波の長、長、長、長、長、長、長、長、長、長

往來、松、加納の城、南ふ、あり、む、の、ね、々、宝暦、年中、に、持、々、

あけ、ね、お、け、ね、さ

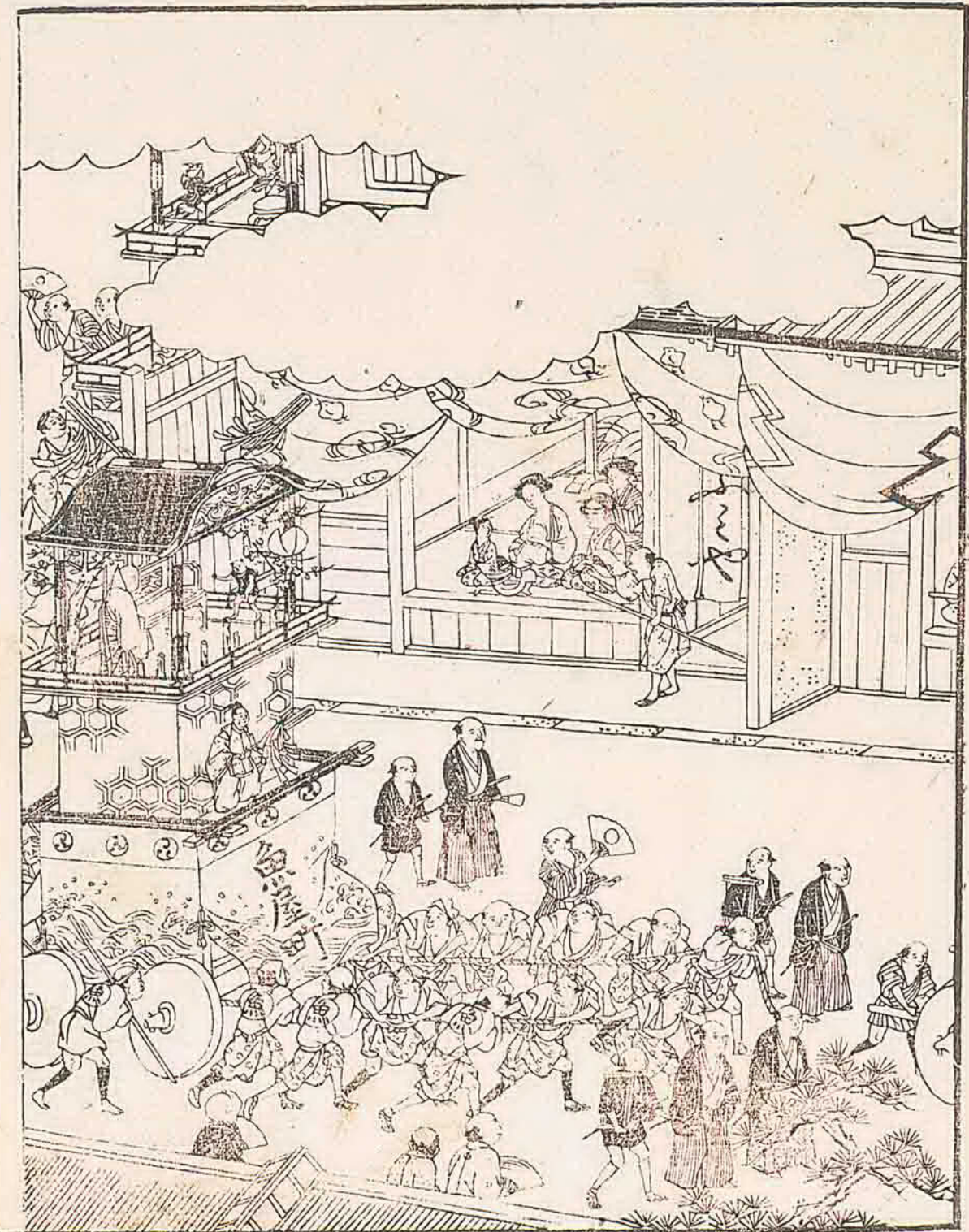
犬山
針綱神社



針綱の別業ハ

八月廿八日

神幸十二卒聖々て呉服商人
 死を裁きつるが十七人父母
 友員の山伏入傘持
 十二卒神幸の神指
 御醫神弓神帶等
 それより神幸
 神幸あり
 社勢ハ騎馬中
 佐子に十二卒の
 神幸生子の
 町々より神
 近隣の在郷
 みかひ果武を
 勤むつて教を
 する例式く



あはれなる通路の松ひろくゆきし名成るもの

武志少

瑞龍寺

加納の小山の半あり瑞龍寺山といふ妙心寺悟溪和尚の開基應仁年中吳濃守土岐成頼菩提の勅土岐長良の法号と瑞龍院殿也号に

苗部神社

加納の苗部村あり

比奈守神社

加納の比奈村あり加納の同長柄村あり

新加納

加納のひがしをてふあり町あり

飛鳥田神社

飛鳥村あり延喜式内

加佐美神社

右の隣村古市場村あり今

御井神社

延喜式内

名勢野

加納の東方あり延喜式内

針綱神社

加納の南一里許尾羽丹羽郡大山城下名桑町あり

いかに今城山あり一が天文の頃ひがしの山に遷座に

村國神社

各勢郡各勢村あり

鵜沼

左田中二里許留間とも書又賣間の市とも云う

より尾羽大山の城見ゆれ名古屋七里あり

後拾遺

東海のうみはうみまていふ事あり人のいふはなり

原多之

惟子山

惟子村あり

又本

小秋山といひ山の時多しう森の友といふ

依後

勝山窟觀音

本名川の之窟の中に石像れ觀世音以安曇一傳あり

清泉流るは側の風景のちとて若石崔嵬なり他境ふく

きく奇絶の所

波瀬川

一名名田川ともいふこれよりひがしには川筋右へつり左へ流る

それ波瀬川のおくれ早く川急の岩多くはくちりて奇く妙く

岩窟
 観音
 後の方子清水
 湧出



親音坂
 大岩多
 下の田川
 水のゆれ
 風来



その形多く其風景ありて河傾とざる船遊び一駿浪奔馳して
千雷とて鳴るたふたひあふ

美太田

伏見まで二里は宿お對して巷城るに幸ふ所許
は所より花経國へ越る道あり

名造園鍛冶を田より二里許はありむより渡船多く一都會の地ありて町育

名産竹屋村を田より一里少は竹屋より一町ありけ越の村より
多く出れ英徳

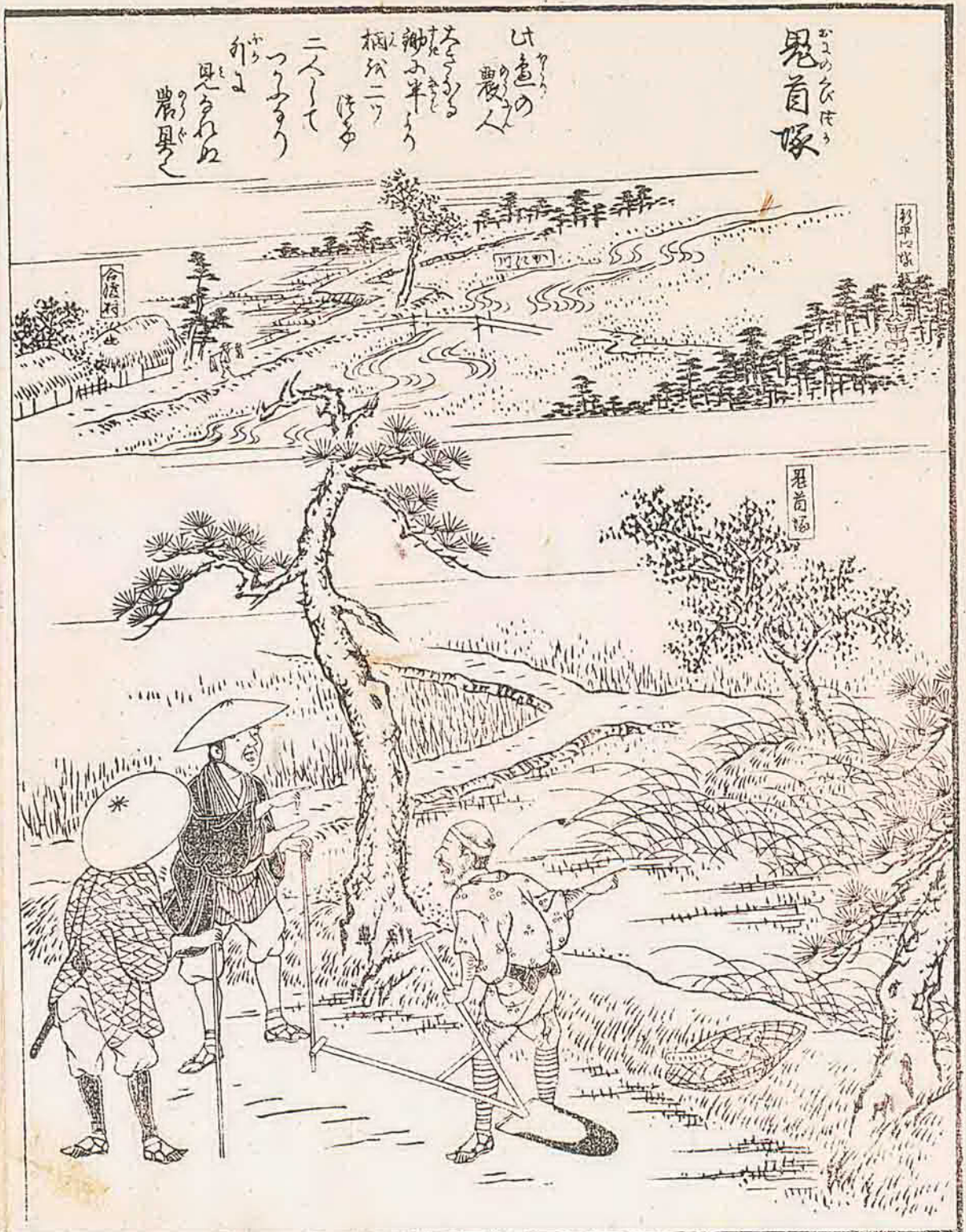
名産炭濃紙を田の方武藝郡より多く出れは郡の町いち
市列郡の

太田川の東にありあり本若川の下流まで下流なり
ひろふ落合より花経川も大河なりども本若川より細くを田

縣主神社を田の秋あり延喜式内
今賀茂社と称に

鬼首塚

鬼首塚



け越の
農人
二ノ
つう
外
農具

金山古城 を田の東にあり信長公の居城三左衛門

伏見 美濃

御岳 をき里の間にありむく國を希とす

山里 をき里の間にありむく國を希とす

在原行平塚 河のゆい小由縁

鬼首墳 合後中村の間にありむく國を希とす

細久手 をき里の間にありむく國を希とす

御嶽 美濃

山間小居 をき里の間にありむく國を希とす

大寺山願興寺 天台宗

本尊蟹薬師 傳教大師

阿弥陀堂 牟堂の西

庚申堂 右の隣り

閻魔堂 牟堂の東

護摩堂 奥の方小

史尚寺 をき里の間にありむく國を希とす

行智尼 をき里の間にありむく國を希とす

事と朝 をき里の間にありむく國を希とす

西 をき里の間にありむく國を希とす

八 をき里の間にありむく國を希とす

日 をき里の間にありむく國を希とす

一 をき里の間にありむく國を希とす

山 をき里の間にありむく國を希とす

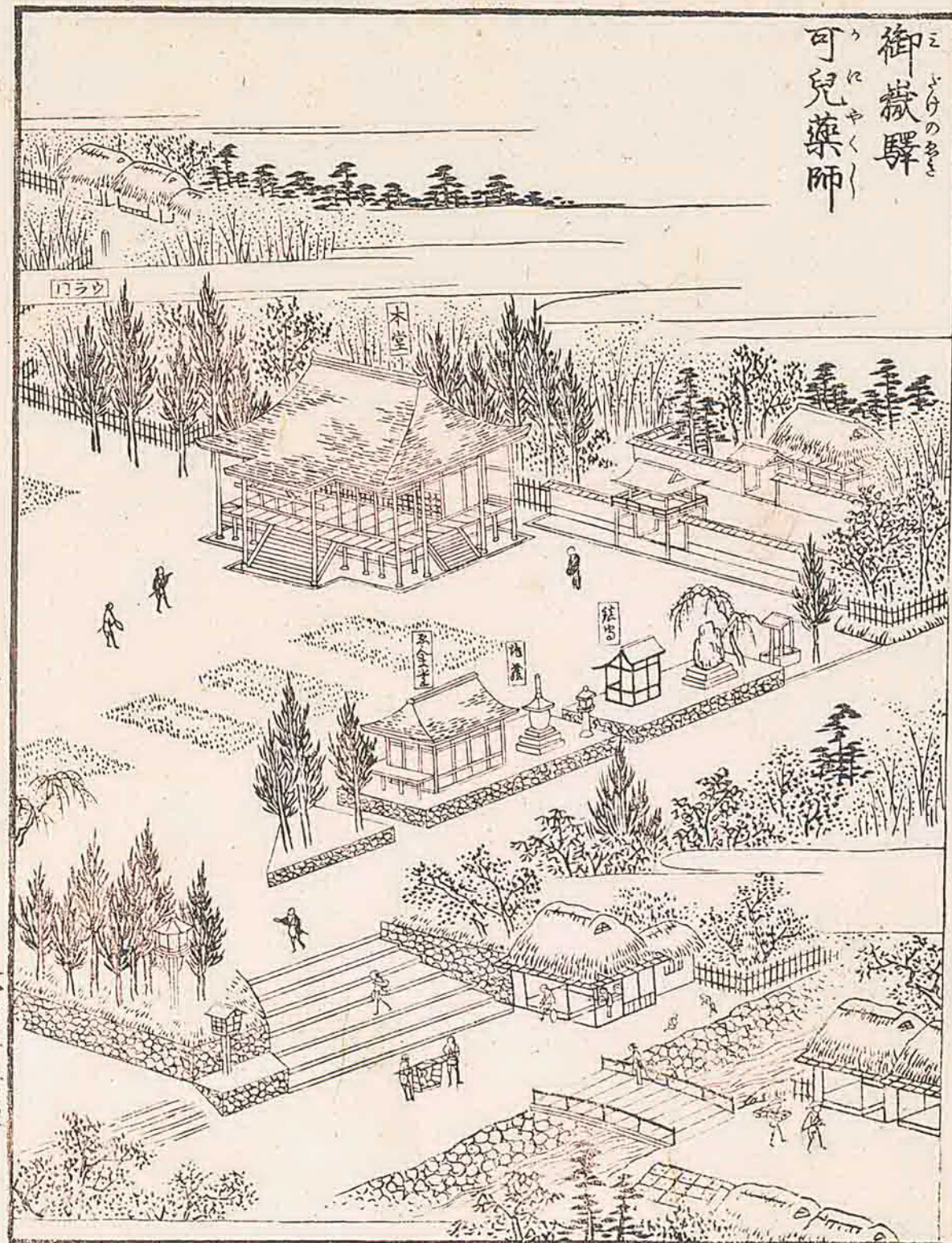
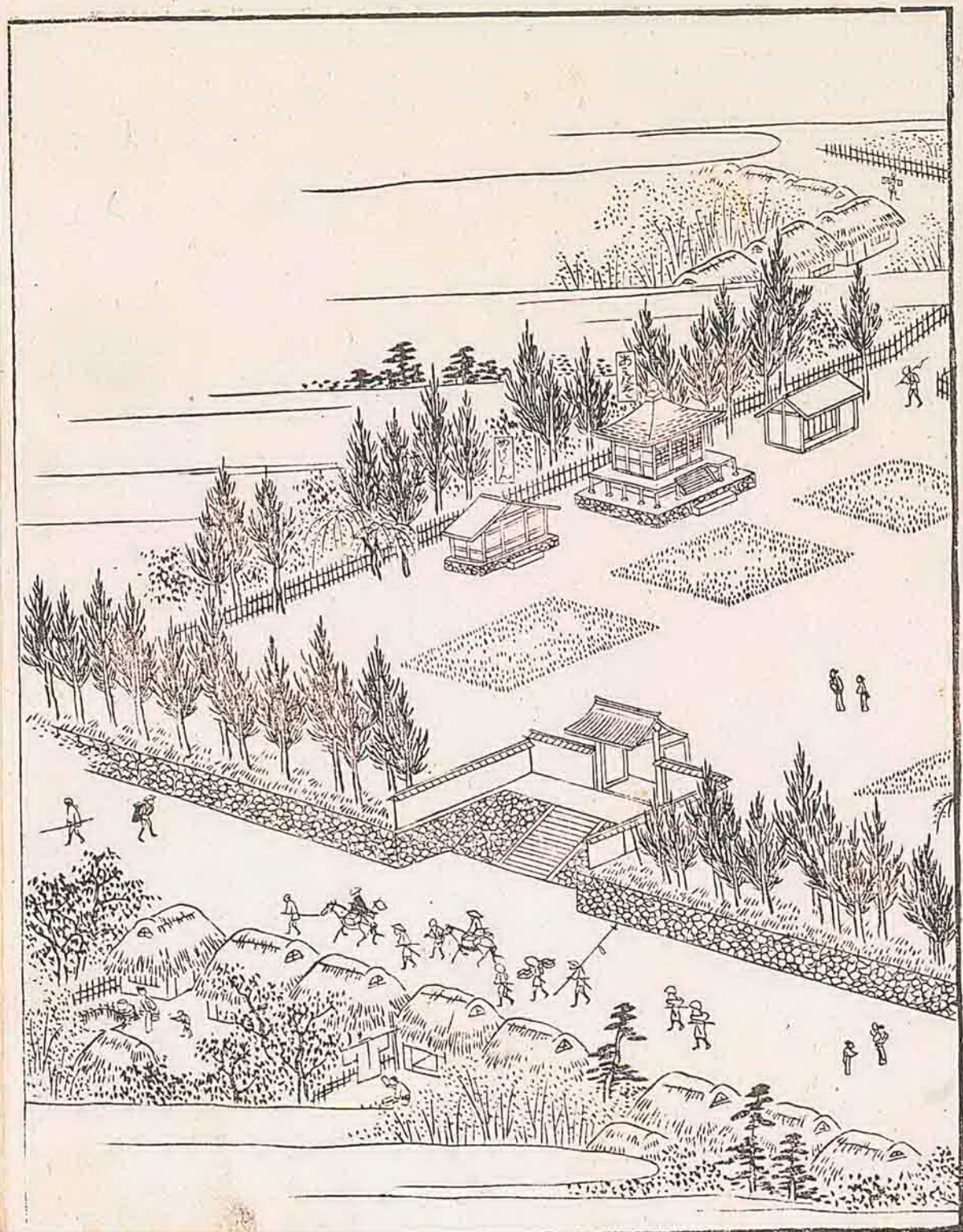
一 をき里の間にありむく國を希とす

達 をき里の間にありむく國を希とす

一 をき里の間にありむく國を希とす

一 をき里の間にありむく國を希とす

一 をき里の間にありむく國を希とす



御嶽驛
可兒薬師

諸堂として成就せり因茲大寺山願興寺を辨以別入佛地
書あり導師師比叡山覺運僧ふりて出現の靈像を行智尼右
城腹少小龍移り今小龍八百餘家と稱るといふ日貴職群と
るなり又厥后長保元年二月七日大般若經開出なりけり則と名づけ
經ヶ洞と稱ふ其頃尚國賀郡賀茂村に於て三千六百文の寺地
と賜ふるこれより毎歲二月大般若轉讀を渡せり其日元年二月より
棟本寺を始む天仁元年の兵火小伽藍僧坊一時は灰燼とす其後
正治元年時の鎮主領源吾盛康力とありて再興ふる其頃尚郡
寂本の叡室國を即とて強盜ありて大人民を悩め財宝を掠め
て凶事多し其主盛康は幸ふ新整成けりいふ忽ち靈應を於て
擲るれ首級刻らる今尚郡中村の鬼首塚とて是なり又元龜
三年兵變の災小罹ふ天正九年辛巳建立の願主として尚郡を
任人玉置与治郎市場左衛門を即施主として修志成用られ遂小再

源宮

其に即今の伽藍これより辛巳を指回し指に同辛その長は辛巳靈
佛用庭の時業障淨と事親ふか中寺以物以てとも勝勝として拜
せざるものなり又寺より出る所の乳木乳のふれ婦人小靈驗あり
其外土岐斎庭武田森宮に於てより其於多し又可思の替女可思の
才後が由縁奉ておつふ勝ありけり靈なる事山道よりわづはう人
馬を止免所靈を以て其令に入ふぬにたりとせ
其岳の狀乃南久利村小なり
同流ふはありて經多し

祭神八坂入彦令八坂入媛の靈を崇む

日本紀

景行天皇四年美濃泳宮行幸

万葉

百岐年三野國之高北之八十一

麟乃宮尔日向尔行靡闕矣

いづれにうまのふりゆふむむむいふ哀ゆ人ふあさむれ

頼めううわれゆふむむむいふ哀ゆ人ふあさむれ

夫本
日

和泉式部墓 神岳より十町許ひがしおる本の

鬼窟 奥ふたの事あるに

一香清水 坪あれども若くしてからに

永保寺 神岳の南長村あり虎溪山と号し永保寺天竺の

平 絶地 平忠村の左の方小平石

大猷 中の一里二十町山家之坂より系より下りいはい取を登り

細之手 坂よりこれより登りい下りて細久手い去地の高れなり

月吉日吉里 細久手の南土城郡の月吉日吉里日吉里両村あり

夫本 墨のふれを登り小を登りいひわたりて月吉日の里 辰明

山家 石のふれをいひて有ぬの月吉日吉里なるて 石

龍歌 園より北にありとありのふれなる月吉日の里 徳久

月吉日吉里 月吉日の里あり

琵琶嶺 細久手より里登りい通至りて嶺に本岩の清岳に

母衣岩 下りて右の傍ありいげきも

烏帽子岩 其形をいひて名をとり

大井 中の一里半細久手大猷

大猷 其本宿賊に

竈山 大久手の南

夫本 英濃の國の南の山に日るれをとりて大猷とす

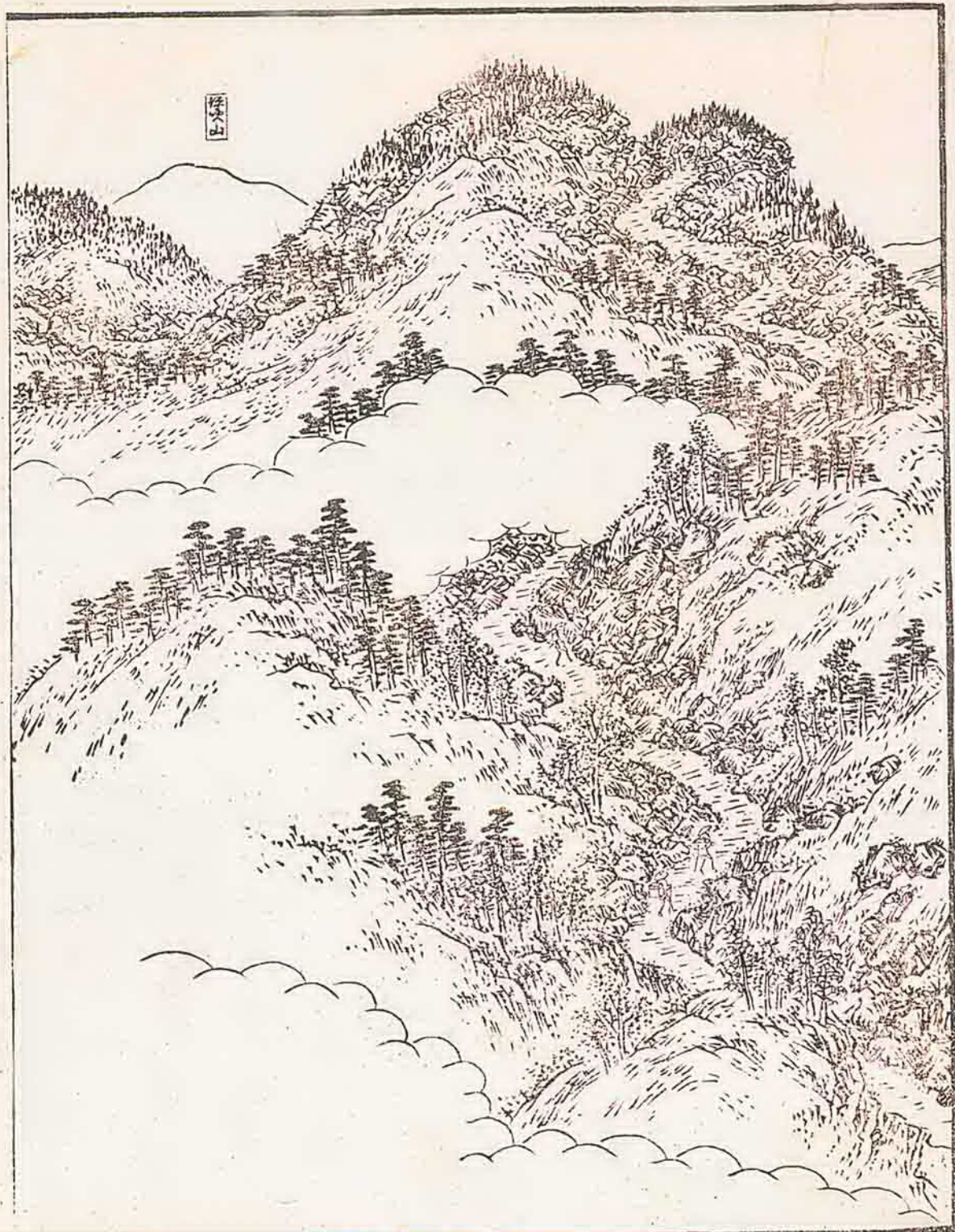
浮舟系宮 又名古屋別道 石燈籠を建たり

七中松 松の葉あり七中松あり

西行法師 大井の宿中里あり中井村あり

中津川 中津川まで武里半は宿山中にてお對の家三田町

大井 許終る山間小敷に



桂山



琵琶嶺

白山

雲れ亭

如川にッ

系みき

浪花

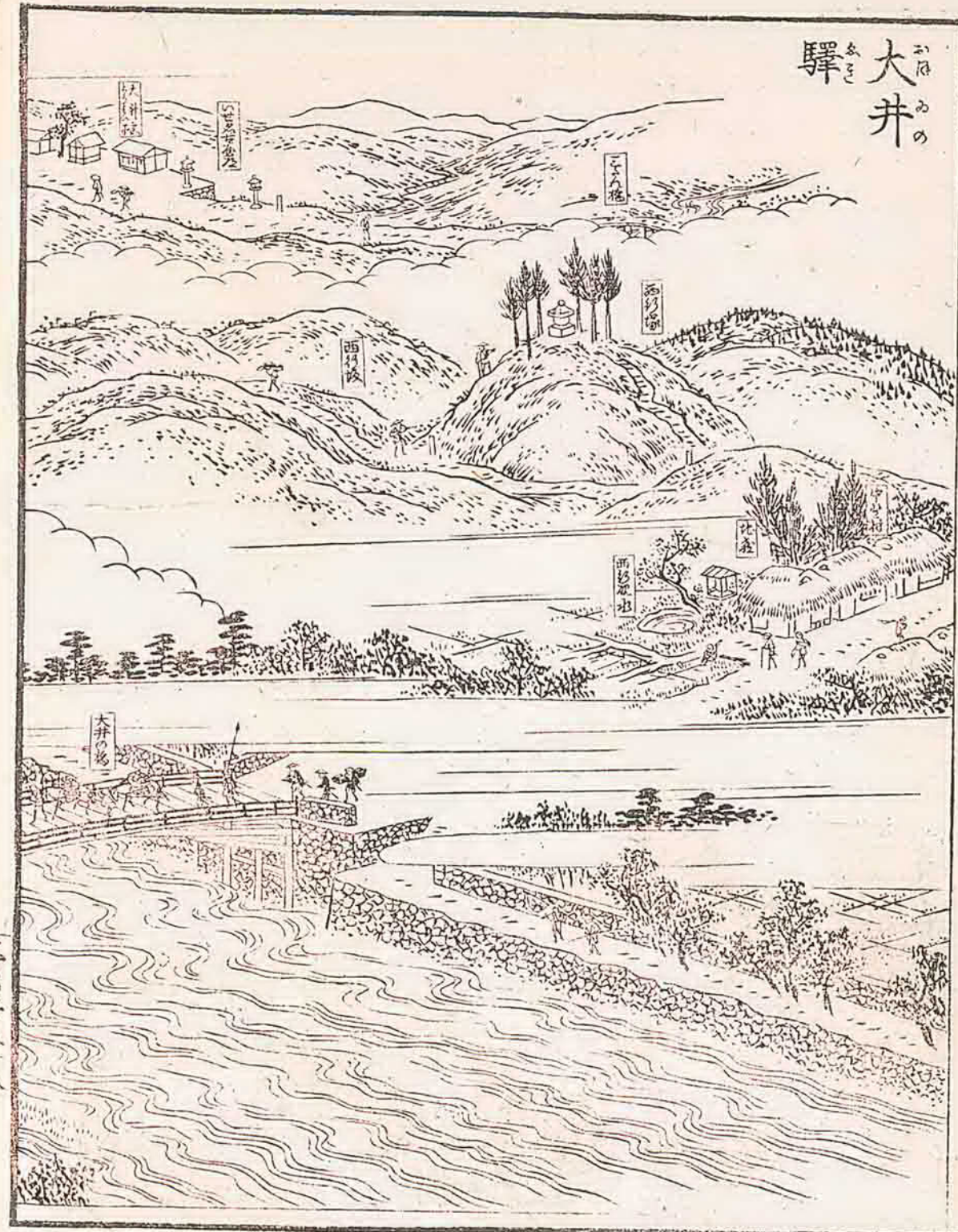
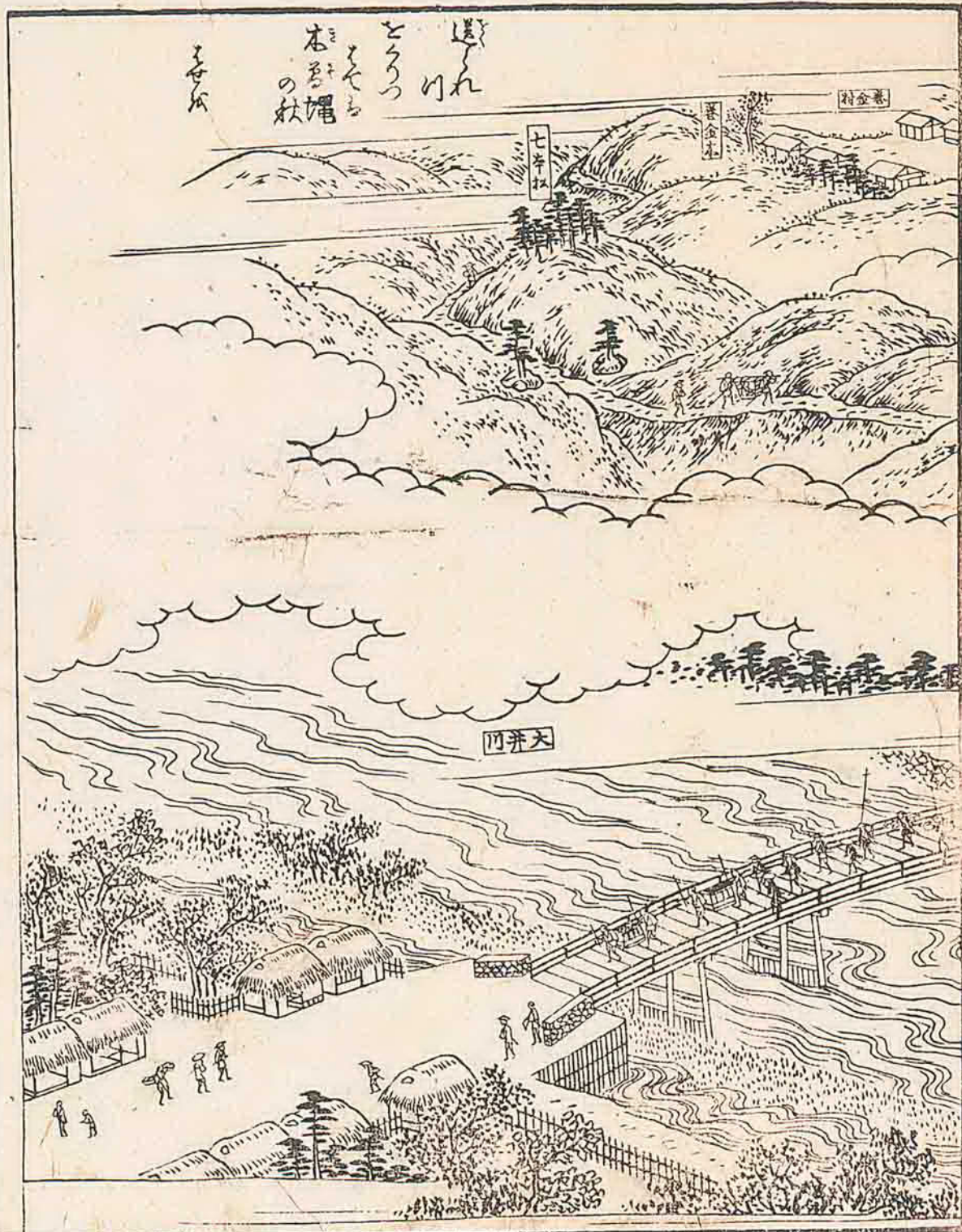
輔

中殿

ぬろ岩

松竹園

本巻二五十七



我のいふ處の事風をく大井のよきに教をきく あり

おれら入る種のをきくあすもやどは安んすん 日

は二首の寄と西行と記して大井の宿内

花あ 山 大井の宿の南東北村の中宿とあり西行法師

遺に又其時の井も 遺に又其時の井も

山家

思ふくたのふらん本の中はゆけし我をきん 西行

乳頭

花あ 山 大井の宿の南東北村の中宿とあり西行法師

大井橋 大井の秋西の方へあり中間小橋あり

根津甚平墓 大井の練石橋村あり甲辰武田信玄の家あり

坂中 大井宿中津川の宿ありひい新宿あり

八幡宮 大井宿あり性喜より寺所に入り

中津川

落合中津川宿内お對して蒼松るん幸八町

本号二五十九

中川神社 中津川の宿あり延喜式内

惠奈神社 中津川宿の裏あり延喜式内

与坂番所 与坂宿あり尾州公より

落合五郎兼行靈社 落合の宿あり本居義仲の

藤物語の里より落合の宿まで凡三十餘里其境の境あり

既登嶺より山路より其境路と垂井駅栗田光典の考あり

交るる小記をきくむいり惠奈郡小古道ありて其境必

小蘭原伏座ると入る一幸三代室強又見ると天曆天徳の

頃より奇しき信濃を強と落合よりむいり唯日嶺まで四十

七里大畧山中にて坂多れどけき所ありみふ山あり

ゆへ人の心をめりてむいり旅全のそとあり旅方あり

くくまは先やうし又山川乃くく林本のあざら佐列母

をぐれくうはちり人きり人きりて道のゆききり

かゞ心^{こころ}を^をめ^めう^うり^り三冬^{さんとう}初^{はつ}雪^{ゆき}の^のこ^ころ^ろを^を雪^{ゆき}深^{ふか}く^くして^{して}ゆ^ゆき^きを^を穂^ほを^を
形^{かたち}を^を機^{はた}道^{みち}か^かゞは^は領^{りやう}ま^まう^うり^り絶^えに^に脛^{あし}を^を一^{ひと}人^{ひと}は^は老^{おや}う^うり^りか^かゞ
か^かゞ心^{こころ}を^をめ^めう^うり^り三冬^{さんとう}初^{はつ}雪^{ゆき}の^のこ^ころ^ろを^を雪^{ゆき}深^{ふか}く^くして^{して}ゆ^ゆき^きを^を穂^ほを^を

本曾路名詞圖會卷之二

